

さくらっ子

輝くこころ 輝くひとみ 輝くからだ

三春町立中郷小学校だより

No. 5

H28. 6. 23

発行責任者 校長 橋本一弥



体験を通して生き生きと学習② ～4・5年生宿泊学習～

4・5年生は、6月8日から2泊3日で、いわき海浜自然の家で宿泊学習を行ってきました。本校の児童にとって、海に関わる活動はとても貴重です。磯遊び活動やアクアマリンふくしまの見学、アンモナイトセンターでの化石の発掘体験など、多くの活動が忘れられない思い出になったようです。

また、集団生活を通して、マナーや協力する大切さなども学んできました。特に、4年生は親元を離れての宿泊が初めてという児童も少なくなく不安げでしたが、5年生のリードのもと楽しく活動できました。心の成長も大きな成果です。学んだことをぜひ毎日の生活に生かしてほしいと思います。



アクアマリンふくしま



野外炊飯



磯遊び



化石発掘体験

ひびけ歌声 ♪

本校の特色の一つに音楽活動があります。月に2回の音楽集会や月1回程行っている全校音楽は、全校生で歌ったり楽しんだりすることができる楽しい時間です。

歌唱で大切な発声の仕方が身についているので、新しい曲に挑戦してもすぐに素晴らしい仕上がりになります。全校生の声の一つになって集会ホールにひびく様は、歌っている児童自身も心が耕されるようなよい時間になっているように思います。

30年近く前に本校の設計が検討されたときに、「将来できるダム湖に児童の歌声がひびくような学校にしたい」という願いがあったとお聞きしています。今、まさにその姿が目の前にあり、しっかりと根付いていることをうれしく思います。

楽しいことはもっと楽しくということで、6月の集会では、職員が即席の合奏団を組んで伴奏を演奏し、児童といっしょに音楽を楽しみました。今後も工夫しながら楽しい活動をつくって行きたいと思います。

6月は、次のような曲を歌っています。

愛唱歌 「すてきな友達」「いただきます」
今月の歌 「歌えバンバン」「たなばたさま」
「南の島のハメハメハ大王」 など



滝桜の種を拾う

6月20日(月)に「滝桜を守る会」の2回目の活動を行いました。この時期の活動は、貴重な滝桜の種を拾う活動です。一般の方々には認められていないとても貴重な体験です。拾いやすいようにと、町役場の産業課の方が予めシートをしいてくださいました。

当日は、町役場の皆様や地域の皆様に見守っていただきながら、苗の育成のご指導をいただいている近内耕一さんのご指導をいただきながら、滝桜の幹の周りに入って採集し、種洗いの作業まで行いました。

なお、平成30年度に福島県を会場に開催される全国植樹祭の大きな取組の一つに、滝桜に関わるものが決まったとの情報をいただきました。当日は、今後を見越して県庁の植樹祭準備室の方々も活動の様子を見に来られました。植樹祭に関わり本校児童の活躍の場がありそうとのことで、今から楽しみです。



ご協力ありがとうございました！

第1回奉仕作業 6月4日(日)

早朝より学区内全地区をあげて本校の除草作業を行っていただきました。広大な校地ですが、まちづくり協会、PTAが協力して適切な役割分担で行っていただいたおかげで、短時間で非常に美しい環境が整いました。

プールや校庭での学習がとても安心してやりやすくなります。本当にありがとうございました。

子どもをたくましく育てるために

その2 自分の事を自分でやる習慣を育てましょう② ～あとしまつ～

学校の合言葉に「あいさつ あんぜん あとしまつ」という3つの「あ」を掲げているところが多くあります。それだけ「あとしまつ」は定着しにくいことのひとつにあげられますが、これも「自分の事は自分」でさせたいことのひとつです。学校では以下のような場面が代表的なところではあります。

- ・席を立つときに椅子を入れる
- ・給食の後片付けを自身でする
- ・開けた戸を閉める
- ・靴箱にくつのかかとを揃えて入れる
- ・工作の紙くずや習字の墨液を処理する
- ・運動着をたたんで袋に入れる

最近では、建物や車のドアなども自動になっていて、自分が通った出入口の戸を閉めるというマナーさえ気づきにくいほど便利になってきています。子育てや教育に関わっている私たちは、このように便利な生活には大きな落とし穴もあることを、子どもの様子を見ながら考えて行く必要があると思います。「自動化されすぎた生活は、場合によっては子どもにとって害になることがある」といえるでしょう。

後始末がきちんとできる根底には、自分の事は自分でということに加えて、次の人への配慮という心の成長があります。心も育って後始末が習慣化してくると、例えば、オープンスペースの机で作業をしたあとなどに、自分の出した消しゴムのかすをていねいにまとめてとってゴミ箱に捨てる、といった行動を自然と行うような姿も見られるようになります。このような行動は、そのままにしてしまうと、あるいは机の下に飛ばしてしまう行動とは雲泥の差があります。望ましい行動がますます増えるように、学校や家庭、地域が力を合わせて、行動と心の指導をしていければと思っています。